

出来る時に、
出来る事を、
出来る人がヤル

さんさん

燦燦ニューズレター

発行
上智大学金祝燦燦会
〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1
上智大学ソフィア会事務局気付第1回上智大学留学生夢支援募金懸賞論文奨学金の
授与式と発表が行われました

受賞者を囲んで(写真提供ソフィア会)

「SOPHIA 未来募金」を通じて留学生を支援するために燦燦会で企画

「上智大学留学生夢支援懸賞論文奨学金」(以下、留学生夢支援募金)は、上智学院が教皇フランシスコ来学(2019年11月26日)を記念して創設した「教皇フランシスコ来学記念表彰」を金祝燦燦会が受賞したことをきっかけに設立された奨学金です。海外からの留学生がどのような夢を持ち上智大学で学んでいるか、その「夢」を論文として語ってもらい、燦燦会として留学生の「夢」の実現をサポートすることを目的としています。

「留学生夢支援募金」は、上智学院が燦燦会の会員に限らず、卒業生の皆様をはじめ、在校生のご父母など、団体・法人も含め、広く寄付の募集展開をしている SOPHIA 未来募金の用途メニューの一つです。

第一回授与式及び発表会が開催されました

第1回目の懸賞論文には9名の応募があり、厳正な審査を経て4名が残り、2022年11月25日に2号館1702会議室で対面の表彰式が行われ、最優秀賞の1名と努力賞3名の発表が行われました。式は田原希望^{たばらのぞみ}学生センター経済支援担当が司会を務め、上智学院を代表して福武慎太郎学生センター長が上智での学びを生かし、将来、母国で、また日本でなにか出来るのかを考える事の意義を強調し、それを通じ卒業生、学生、教職員との交流の輪が広がる事への期待を表明されました。このことは正に燦燦会が目指していることを代弁していただいたと思います。

次いで、燦燦会の畔柳^{くろやなぎふみお}文雄会長が「教皇フランシスコ来学記念基金」の創設にふれ、会として懸賞論文奨学金の授与に貢献できる喜びを語り、留学生の夢の実現のために尽力することを約束しました。

最優秀賞には地球環境研究科博士課程後期1年のカメルーン出身のンケンベ氏(Ndille Claurence Nkumbe)が選ばれ、福武学生センター長から賞状と奨学金20万円が授与されました。その後、ンケンベ氏が次の趣旨の論文の発表を行い、謝辞を述べました。発表は <https://youtu.be/Wnk6yMKumPo> で視聴できます。

優勝論文の主旨

「カメルーン経済の推進力である農業を、環境保護・保全を考慮して発展させるために農業技術研修施設を建設する。いまは生産性にのみ重点が置かれていて過度に農薬が使用されていてもその弊害が認識されておらず、環境破壊や生物の多様性が損なわれていることが問題視されていない。そのような実状から、環境にやさしい農業技術を用いて気候変動へも適応した持続可能な食糧生産を目指す。これにより飢餓と貧困を大幅に低減できる

ことが期待される。最終的には全国を10地域に分け一箇所ですべて50～100名の研修生を無料で1年間の研修を実施する。最初の施設はブエア市(Buea)に政府、NPO などの支援を得て建設し、内外の大学の研究者、専門研究者だけでなく農業実践者の協力を得てトレーニングを実施する。」

以上の計画は極めて具体的に野心的なもので、計画の実現を願っています。ンケンベ氏は親の影響で子供のころから農業に関心を持ち、カメルーンの大学では植物生理学を専攻、東京農大で農業の修士号を取得、そして、コメ栽培技術の専門家として子供のころからの夢を実現するために座学の総仕上げとして上智の博士課程で学ぶ37歳です。

燦燦会から努力賞2万円を提供

燦燦会では賞を逃した3名に努力賞を贈ることを決め、インドネシアのラマダニ氏(Deanty Mulia Ramadhani)、コロンビアのレオナルド氏(Rivera Andres Leonardo)とマルタのジョルダン氏(De Bono Jordan)に、それぞれ表彰状と2万円が畔柳会長から手渡されました。ラマダニ氏は地球環境研究科博士課程後期1年で、ボルネオ島の故郷の環境と家族にふれ、上智での豊かな国際環境のなかで、コロナ禍の厳しい状況下充実した研究生活が続けられることに謝辞を述べられました。レオナルド氏はグローバル・スタディ博士課程前期1年で、謝辞の中で、「Kaizen」の手法を用いて母国コロンビアが直面する交通網のサービス改善と環境問題の解決のために努力することを誓いました。また、ジョルダン氏は同じくグローバル・スタディ博士課程前期1年で、コロナ禍の来日の中で、大学の暖かな受入に感謝と憧れの日本に来られた喜びを語りました。マルタではイエズス会の系列の学校で学んだ事もあり上智での学びに、金祝燦燦会にもあらためて謝辞を重ねました。

限られた時間と、コロナ禍による限られた出席者での授与式でしたが、力強い受賞者の言葉は福武学生センター長が述べられた上智での留学生の卒業生、学生、教職員との実質的な交流の第一歩であることが確信できました。

なお、表彰式の様子と努力賞を受賞した3名の言葉は <https://youtu.be/5WUCgCitZtY> で視聴することができます。

優勝者の言葉 First-Place Award

NDILLE CLAURENCE NKUMBE / Global Environmental Studies (Ph.D.)

I want to say thank you very much to Sophia University for creating opportunities for international students like me through the Sophia University's Benefactors Scholarships, and to the Kinshuku Sansankai for deciding to support students with their dreams after graduation and help them serve as a bridge between their home countries and Japan. I am extremely thankful to you for acknowledging my name for this honorable certificate. This is so far one of the most crucial and special events of my student life. I am sure it will bring more self-belief and dedication to my studies and professional career.

努力賞受賞者の言葉 Effort Award

DEANTY MULIA RAMADHANI

Global Environmental Studies
(Ph.D.)

Main things I have been learning from being a studying mother are about strength and perseverance. It doesn't matter how old we are, where we are from, what roles we have, there will always be a right time for each of us to reach our dreams. Kinshuku has proved it.

DE BONO JORDAN

Graduate Program in Global
Studies (M.A.)

Kinshuku-Sansankai have once again shown their love and support for the international community in Japan, that we so much appreciate; their efforts will be one of the positive memories that I take back home with me.

RIVERA ANDRES LEONARDO

Graduate Program in Global
Studies (M.A.)

Dear Kinshuku-Sansankai association, it was only in my dreams that I imagined receiving such aid from honored people like you. Thanks to your support, we can believe that dreams come true.

「上智大学留学生夢支援懸賞論文奨学金」へのご支援のお願い

上智で学ぶ留学生の「夢」の実現のため、彼らがその「夢」を母国で叶えるため、皆様からの温かなご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。「SOPHIA 未来募金」へのご寄付の手続きや税制上の優遇措置については、ウェブサイトの以下ページをご覧ください。

<https://giving-sophia.jp/donation/index.html> (ご寄付の手続き)
<https://giving-sophia.jp/benefits/incentive.html> (税制上の優遇措置)

上智学院総務局ソフィア連携室・上智大学ソフィア会

俳句コンテスト — 英語句の和訳者が代わりました

上智大学金祝燦燦会
Sophia Goldenagers' Club

第11回俳句コンテスト「2022年秋/冬」
The 11th Haiku Contest (2022 Autumn/Winter)

表彰式

January 23, 2023



留学生による第11回俳句コンテスト2022秋/冬の表彰式が、前回に引き続き Zoom によるリモートで1月23日に開催されました。佐久間理事長をはじめ暁道学長、サリー総務担当理事、柳澤学生局長からそれぞれお言葉をいただき、学院・学校からも多くの方々の参加があり、留学生16名を含めて総勢42名の参加となりました。

英語作品については FLA 国際教養学部教授のト

ンプソン先生による内容豊富な素晴らしい講評、そして、日本語作品の講評は金祝燦燦会会長でソフィア俳句会のメンバーでもある畔柳氏によって行われ、とても分かりやすい講評と解説で俳句に親しみがなくても良く理解することができ、入選句が一層引き立ちました。

☆ 日本語句最優秀賞

星月夜一曲終わり一人なり

英米文化研究科サイ・インインさん作
中国

佐久間理事長に「金祝燦燦会会員の江澤健二先生が英語の句をふさわしく和訳されるので、英語の詩がまさしく俳句になるという奇跡を、毎回、目の当たりにすることができました。」と仰っていたくほど燦燦会の俳句コンテストでの英語句



の和訳が注目されています。江澤さん(60年文英)には前回まで10回にわたり作品を披露していただきました。お陰様で、燦燦会の俳句コンテストは他にないユニークなコンテストであると評価していただくまでになっています。江澤さん、ありがとうございました。

その江澤さんに代わり今回から1969年外露の^{やちもとえいこ}谷地元瑛子さんに担当していただくことになりました。さっそく谷地元さんにはそれぞれの入選句の和訳についてご苦労話を含めて解説していただきました。注目されている英語俳句の和訳を引き継ぐにあたり、谷地元さんは次のように語っています。

☆ 英語句最優秀賞

Folded in warm quilts toes peeking out of hem safe from winter

国際教養学部ユウジナ・プSPA・ピタロカさん作
インドネシア

和訳：霜除けにキルトつま先すこし覗き (谷地元さんによる和訳)

「じつは私は何十年來、俳句の産みの親ともいわれる俳諧の連歌(みじかくは連句といひます)を二カ国語で国際連句協会で活動してきました。いま『俳句を世界遺産に』という運動がありますが、俳句とだけきめてはもったいないと常々思ってきました。TV の人気番組ブレバドの俳句コーナーや俳句甲子園はたしかに目を惹きますが、俳諧本来の魅力は競争ではなく、ひとつの空間に車座のように集い、美への郷愁や時々変わる人間の情感を互いに交換しつつ大きなひとつの共生の詩を巻紙につらねてゆく連句にこそあるのです。留学生のみなさまの句に優劣をつけることから、一歩進んで、さまざま異なる境遇の学生たちがところをかよわせ、ひとつの作品をつくるならば、さらに豊かな交流になると信じて一筆させていただきました。」。谷地元さん、これからもよろしくお願ひいたします。

燦燦会の会員が顕彰されました



「ソフィア会に顕著な貢献があった」ということで、2022年秋季全国代議員会での第4回ソフィア会顕彰表彰式で燦燦会の会員3名が表彰されました。おめでとうございます。表彰式は3年に一度開催されるもので、今回の被表彰者13名を代表して会員の戸川さんが挨拶をされました。

写真左：戸川宏一様 (1963経商、ソフィア会前会長)

中：山本雄造様 (1963法法、北九州ソフィア会前会長)

右：風間烈様 (1965外仏、フランス語学科同窓会前会長)

このソフィア会顕彰表彰式は、2013年の上智大学創立100周年を機に設立され「上智大学ソフィア会貢献者に対する顕彰規程」に基づくものです。

(写真提供ソフィア会)

燦燦会の役員に聞く ① 事務局長 おがわ げん 小川 元 (67 外露)



僭越ながら金祝を迎えた人達を対象に72歳以上の同窓会の事務局長を引き受けています。多分このような同窓会は珍しいことと思います。ぜひ皆さん、参加して自分の出来る事を、出来る範囲で、出来る人がヤルという精神で行きたいと思えます。このことは痴呆症予防にもなりますので皆様の諸行事へのご参加を期待しています。

私の第一の仕事は毎月開かれる運営会議を纏めるということです。そのため会議室の予約だとか次月の会議で検討されるであろう議案の作成、また会議後の議事録の作成です。また、例年春に開かれる総会の議案の策定、そしてその印刷、送付、当日の出席者のカード作り、受付などを行い、総会のまとめを行ないます。その他会員相互の懇親会などの設定を行ないます。

会員相互の懇親会のチャンスはこれまで総会の他各種の表彰式、勉学奨励金、俳句コンテストなどがありましたが、ここ3年間はコロナの影響があり出来ませんでした。今年是对面で行なえると信じています。ソフィアンズクラブでの一杯も楽しいものです。(Zoomをおじいちゃん、おばあさんが使えるようになるとは驚きですが)。

一方、留学生については、毎年夏に行なわれる勉学奨励金受賞者のうちから1名を選び、運営会議に先立って講演会を開いております。彼らのメールアドレスを取得して毎月お願いしています。どうぞ彼らの生い立ち、夢を対面あるいはZoomで確認していただきたいと思えます。

また、今までの俳句コンテスト、日本語スピーチコンテスト、勉学奨励金受賞者に対し、月2回挨拶と称して日本の紹介を行なっています。これは二十四節気に併せてその句にあった、話題を載せています。例えば、4月の終わりだったら穀雨「春雨降りて百穀を生化すれば也(暦便覧)」。これに引き続いてゴールデンウィーク、端午の節句などを解説しています。このことを通じて留学生が日本に来て日本を理解できたと思えるよう努めています。ただ、彼らに毎年同じ話題を届けるのは意味がなくて、話題造りに苦勞しています。

と言う訳で皆さんの内で留学生の講演会の内容を翻訳してくださる人や日本紹介のヒントをくださる人を探しています。

会員募集 — 72年卒の「語らいの場」に参加しました



1970年、71年および72年卒は祝賀会が開催されていないこともあり、燦燦会への新規加入は3年間で19名に止まっています(70年13名、71年3名、72年3名)。それまでは毎年祝賀会が開催され、その場で入会のお願いをするのが慣例で10年間で毎年35名強の入会があったのとは対照的です。会の運営資金をほとんど入会金に頼っている燦燦会にとって入会者が少ないことは致命的です。限られた機会を利用して「一本釣りで勧誘に努めてきましたがなかなか成果が上がらず困り切っていたところ、コロナ制限の緩和に伴い待ちに待った金祝を迎えた方に直接入会のお願いをする機会が訪れました。2月25日に1972年卒の金祝の式典が開催され、それに続きソフィア会により祝賀会に代わる「語らいの場」が設けられました。既に入会されている72年卒の会員のはからいで、会場にデスクを置くことがゆるされ、72年卒の200名近くの方に「10年のあゆみ」と入会の振込み票を手渡すことが出来ました。その場で3名の入会があり、これからが楽しみです。70年卒、71年卒は秋にかけて延び延びになっている祝賀会を独自に企画すると聞いており、実行委員会や先に入会されている会員の方々のご協力を得ながら勧誘に努めていきます。

編集後記：「留学生夢支援募金」には企画段階から一つ大きな課題がありました。それは、一口千円募金との関係です。記事にありますように、夢支援募金への寄付のお願いは上智学院とソフィア会が行い、その対象は燦燦会の会員だけではなく、広くソフィア会会員、在学生の父母、教職員さらには企業等の法人および団体までおよぶものです。燦燦会は一口千円募金への寄付をお願いしています。しかし、夢支援募金の成功は「燦燦会の夢」そのものですので、燦燦会としては企画にあたって全面的に学院と協働し夢の実現を目指していきます。会員の皆様には是非とも広いお気持ちでのサポートをお願いいたします。○クンベ氏の夢は農業を通じて国を改革するもので、学問を含めその熱意と準備には心を打たれます。夢支援募金にふさわしい優勝です。○いまや俳句コンテストのメインイベントとなった英語俳句の和訳は、江澤さんに代わり谷地元さんが快く引き受けてくれました。彼女の豊富な経験と力強い言葉、そして将来展望に期待しています。○会として72年卒の「語らいの場」へ参加できたことは会員獲得に向けての大きな進歩です。会の健全な運営に欠かせない会員増、成果が待たれます。(MI)

カメルーンにおける「サステイナブルな農業」、「気候変動への適応」、「生物多様性の保全」

—— 農業教育と実践により、その実現を目指す ——

ンジレ クローレンス ンクンベ
Ndille Claurence Nkumbe

第1回留学生夢支援募金
懸賞論文奨学金優勝者による
講演録^(注)



*私自身について

私は、Ndille Claurence Nkumbe^{ンジレ クローレンス ンクンベ}といい、カメルーンの出身です。現在、上智大学地球環境研究科博士課程後期 1 年で、田中嘉成先生^{ニシノカサキ}の元で研究をしています。私は 6 人兄弟の長男として 1985 年に生れ、現在 37 歳です。父はカメルーンの IRAD (Institute of Agricultural Research for Development) で働く研究者、母は小学校の先生でした。私の今まで受けてきた教育ですが、一般的な勉学はフランス語で学んできました。高校に入つて芸術部門と科学部門を選択する時には迷わず科学部門を選

びました。2005 年にカメルーンの大学に入学、植物生物学を専攻、2008 年には植物生物学で学士を、2012 年にはトマトの葉面肥料についての研究論文で農学修士号を取得しました。2012 年のその修士号取得直後に父が亡くなり、金銭的な理由で学問を続けられなくなりました。そのため 2013 年から 15 年まで、パートタイムの先生としてカメルーンで自然科学を教えました。2015 年には博士号を取るためカメルーンの国立ジャング大学に入学、一方 2016 年には研究者として IRAD でも働き始めました。2018 年、奨学金を受け、稲の栽培技術について学ぶため日本に初めてやってきました。筑波に 8 ヶ月間滞在しました。その後カメルーンに帰国しましたが、2019 年には再び奨学金を得て、東京農大で修士号を取るために来日し、2022 年に卒業しました。2022 年 4 月からは上智大学で博士号を取得するためにがんばっています。今までに 8 つの研究論文を出しました。

*カメルーンについて

カメルーンはアフリカの中央に位置する国です。広さは約 47 万 5000k m²、周りを 6 つの国(ナイジェリア、中央アフリカ、チャド、コンゴ、赤道ギニア、ガボン)で囲まれています。首都はヤウンデで、人口は約 2800 万人。公用語はフランス語と英語で、どちらも同じくらい使われています。カメルーンは(日本の県のように)10 の地域に分かれていて、2 つの地域ではフランス語、残りの 8 地域では英語が使われています。

カメルーンでは、石油、石炭、天然ガス、木材、アルミが生産され、輸出のトップは石油です。カメルーンの農業は自給自足農業で、人口の約 50%が農業従事者。70%以上の人々が農業に関係した仕事をしています。カメルーンの主要な輸出農産物は、ココア、コーヒー、バナナ、ゴム、材木、綿花などですが、年間 800 万米ドル(約 10 億 7900 万円)を使い、米や小麦粉を輸入しています。主食は、キャッサバ(デンブン)、トウモロコシ、米ですが、現在は米が主食のトップになりつつあります。

カメルーンの教育では、地域により英語圏システム、フランス語圏システムに分かれます。両圏共に生徒が両方の言語を使うことが出来るように、英語圏ではフランス語を、フランス語圏では英語を週に 4~6 時間教えています。又、カメルーンの学校は 3 種類に分けられます。一般教育校、技術教育校、プロフェッショナル育成教育校です。

注) この記録は、Nkumbe さんが2023年1月13日に金祝燦燦会の定例の運営会議に先立ち、約一時間にわたってリモートで講演してくれたものをまとめたものです。英語による講演でした。

一般教育校は、小学校 6 年間、セカンダリースクール(中学と高校)7 年間、大学は学士課程 3 年、修士課程 2 年、博士課程 3 年です。90%の学校は公立で、私立と比べると学費が安く、殆どの学校で入学試験はなく、空きがあれば入学できます。また現在、奨学金はありません。入学するに当り、年齢は関係なく、繰り返して学年を学習できますが、あまり出来ないで退学です。一般教育校を終了した殆どの学生は、政府の仕事に着き、自分で起業することは殆どありません。

以前は技術教育校に行く学生は、一般教育校を選ぶ学生よりも能力が劣っていると考えられていましたが、現在ではその傾向は変わり、多くの親が自分の子どもたちを技術教育校に入れたがっています。これは特殊技能を効率的に学べるためです。技術教育校は 7 年で、専門教育を受けた学生は、建築業、電気工事、仕立業、整備士等々に従事し、民間の会社で働きます。一般教育校と同じように奨学金制度はありません。

プロフェッショナルトレーニングスクール(プロフェッショナル育成教育校)は、セカンダリースクール、又は大学を修了した学生向けの学校であり、殆どが政府の運営ですが、近年私立のプロフェッショナルトレーニングスクールも増えてきています。プロフェッショナルトレーニングスクールには、教師育成スクール、ロースクール、外交官になるためのスクール、ミリタリースクール、医学スクール、看護師育成スクールなどがありますが、私立は少数です。入学は大変難しく、試験と面接があり、入学者数も限定されています。入学者は学費等を自分で支払わなければなりません。プロフェッショナルトレーニングスクール修了時には政府からの求人がありますが、私立のプロフェッショナルトレーニングスクール卒業の場合では、就職は難しく、自力で開業することになります。多くの学生がセカンダリースクールや大学卒業時にはプロフェッショナルトレーニングスクールに進学したいと考えますが、大変難しいのが現状です。

*** 上智大学を選んだ理由**

上智大学の教育内容の評判がカメルーン国内でも、又、国際的にも高かったことが第一の理由です。私は生態毒性学を学びたいと思っていました。農薬、特に殺虫剤がカメルーンのエコシステムにどの様に影響を与えているかの研究をして、その分野で働きたいと思っていたからです。上智大学にはその生態毒性学を研究している教授の数が多いことも上智を選んだ理由の一つでした。さらに、上智大学では外国人学生への経済的援助が充実しているという事も大きな理由でした。

*** 夢を持つようになった理由**

カメルーンでは農業従事者の数が多いので、農業のやり方は国の経済全般に影響するのですが、カメルーンの現在の農業の方法は、その殆どが環境に優しくありません。環境を守り、生物の多様性を維持するためにも、もっと配慮が必要です。気候変動も日に日に悪くなっているのです、それがより深刻化する前に備えなければなりません。何が危機にさらされているかを理解すれば、人はその問題を真剣に受け止めることができます。しかし、カメルーンでは殆どの人が農業に従事しているにもかかわらず、学校では環境問題や生物多様性の保全などについては学んでいないのです。というのも、カメルーンには農業を教える学校が殆どなく、現在ある学校数もととても少ないからです。又、殆どの人達は学費を払う余裕もなく、学ぶことに興味も持っていない状態です。多くの人達が農業実践の知識を得るためには、エクステンションワーカー(農業普及員)も必要となってくるのですが、その人数も大変少ないです。農業を普及させるための方法も非効率的で、有能な人材も不足し、予算もなく事業計画や施設も不足しています。これらは、今後、多くの農業学校を設立し、より多くの人達が農業を実践出来るようになれば解決する事です。それには、現在のカメルーンの各 10 地域に、少なくとも 1 校は農業学校を設立することが必要でしょう。又、学ぶためには学費が必要ですが、これについても、もっと考慮して、無料で学べるようにしたいです。カメルーンにもプロフェッショナルトレーニングを受けた人達はいますが、政府

や民間が雇わないので活躍の場がありません。

農業学校で農業のやり方を教え、気候変動に適切な意識を学べば、環境に優しく生物の多様性を保存することが実践できるでしょう。生徒は男女同じ割合にして、全ての子供に公平な機会を与えられるようにすべきだと考えました。

*私の夢

私の夢は、カメルーンの 10 の地域に無料のトレーニングセンターを設立することです。そこでは、気候変動、環境保護、生物の多様性保存を目的にして、農業と環境問題の勉強をします。毎年、50 人から 100 人の学生をそれぞれのトレーニングセンターで教育すれば、カメルーンに持続可能な農業を維持できるとも良い結果が生まれます。学生達には国の内外からの大学教授や研究者から講義やトレーニングを受けられる素晴らしい機会となるでしょう。その後は、殆どの学生を短期留学などで海外へ送り、様々な理解と知識を得られるようにしたいです。卒業後、学生達は農業普及員、指導員となったり、私立の環境保護組織に加わったり、プランテーションの所有者となって活躍できます。トレーニングセンターが卒業生のその後の活動を助け、農業普及のための仕事に従事させるようにすれば、カメルーンのみならず地球全体のためになるでしょう。このトレーニングセンターでの費用は無料とし、全ての人にチャンスを与えたいです。学生達には、自分と、国と、世界に役立つ事を学んで欲しいのです。最初のトレーニングセンターがブエア市にできることが、私の夢の第一歩となるでしょう。まずは資金の調達をし、土地や建物(図書館、研究所など)を準備して、カメルーンの地域毎に、現地の農業生態に適応するトレーニングセンターを建設していくというのが私の夢です。

*最後に

私の夢が実現すれば、多くのカメルーンの人々の幸せに繋がるでしょう。又一方、それはカメルーンの環境を守り、生物の多様性の保全にも繋がり、気候変動に対処する重要な手段にもなります。将来の子どもたちのためにも、カメルーンだけでなく、世界をよりよい場所にしたいものです。私の夢の実現には、カメルーン政府やプライベートセクター、NGO、又、上智大学からも是非サポートを期待したいと思っています。

今回、金祝燦燦会の留学生夢支援懸賞論文で受賞させていただき、大変名誉に思っております。これを糧として、自分の夢の実現に向けて今後はより一層精進したいと考えております。

***** Q&A

Q: 以前筑波に住んでいたとおっしゃっていましたが、一番印象的だったのはどんな事ですか？

Nkumbe: 筑波山で植林したことです。筑波では JICA センターに居ました。

Q: 貴方の夢を叶える過程で、一番障害になることは何ですか？まず人々の農業に対する考え方を変え、農業がお国の発展には一番大事だと思わせる教育が必要ではないでしょうか？

Nkumbe: おっしゃるとおりだと思います。ただ、現在のカメルーンの農業は環境についての配慮は全くないと言って良いですし、主食である穀物も半分以上が輸入に頼っている状態です。考え方を変えるのはもちろん大事ですが、そのためにはもっと教育が必要です。従って、農業学校の数をカメルーンの地方で増やし、又、無料で学べる機会を与えることが私は最重要だと考えています。その結果環境に優しく、気候変動にも配慮した農業に繋がるでしょう。

Q: あなたのお名前についてですが、最初に N がつきますが、どの様に発音するのですか？

Nkumbe: ウンクンベ、ウンディレです — 大学での登録名は、ンジレ・クローレンス・ンクンベ。

Q: カメルーン政府との関係はもう築いていますか？

Nkumbe: まず 2016 年、カメルーンの IRAD の研究者として政府に雇われました。又、私は既に 2 回、政府からの奨学金で、第 1 回目は筑波、今回は上智大学にやってきました。奨学金を得ることはとても難しく、大変狭き門で、これはカメルーン政府が私に多大な信頼を寄せてくれているからだと思います。

Q: カメルーン政府と日本政府との関係はどうなのでしょう？

Nkumbe: とても良い関係だと思います。例えば、JICA はカメルーンでたくさんのプロジェクトを計画してくれました。また、奨学金を提供してカメルーンの学生を日本に呼んでくれています。今後も更にそのような機会を増やしてもらえればカメルーンと日本の絆はもっと強いものになると思います。

Q: 東京の暮らしはどうですか？

Nkumbe: 今は小田急線生田のアパートに一人暮らしです。上智までは新宿経由で 30 分もかからないので便利です。

Q: 新宿をどう思いますか？

Nkumbe: とても人が多くて、いつも迷子になりそうです。

Q: 家族はカメルーンにいるのですか？日本に来てから最近カメルーンに帰国しましたか？

Nkumbe: まだ結婚はしていません。東京農大卒業後、すぐ上智に入学したので大変忙しく、おまけにコロナのこともあり、残念ながらカメルーンにはこの 3 年間帰っていません。でも今年はもしかして帰国するチャンスがあるかもしれません。

Q: 金祝燦燦会の留学生夢支援懸賞論文で受賞して、先生に伝えましたか？クラスの人達の反応はどうでしたか？

Nkumbe: 皆が大変喜んでくれました。担当教授の田中先生は授賞式にも出席して下さいました。

Q: Nkumbe さんは、6 人兄弟の長兄で、弟たちの面倒をみる立場ですよ？

Nkumbe: はい、国に居た頃は、父は出張が多く、母は学校の先生だったので自分が兄弟 5 人の面倒をみていました。一番上と一番下では 16 歳の開きがあります。

Nkumbe さん、素晴らしいプレゼンテーションをどうもありがとうございました。

(佐藤洋子要約・記)

この記録は2023年1月13日に、金祝燦燦会の定例運営会議に先立ちリモートで開催された Nkumbe さんの約一時間にわたる英語での講演をまとめたものです。燦燦会では、毎月、勉学奨励金受賞者や俳句コンテストの入賞者を招いて Zoom による講演会を開いています。講演会は英語または日本語となります。基本的には、第2金曜日の 12:30 から開始します。金祝燦燦会、ソフィア会、上智大学関係者であればどなたでも参加できます。参加費無料。詳細については sansankai@sophiakai.gr.jp までお問い合わせください。